



2018 年 12 月 19 日

「地域ブランド調査」 住みたい&観光で訪れたい市区町村は、いずれも札幌が1位 ～北海道のなかでも、札幌が誇るブランド力が顕著な結果に～

株式会社NTTデータ経営研究所

株式会社NTTデータ経営研究所(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:川島 祐治、以下 当社)は、NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社が提供する全国の「NTT コム リサーチ」登録モニターを対象に、「住みたい&観光で訪れたい地域についてのアンケート調査」を行いました。

本調査は、日本各地において「住みたい」と思われている地域、「観光で訪れたい」と思われている地域・スポットに関して実施しました。

住みたい地域については、現在住んでいる地域に将来にわたって住み続けたい場合を含めて調査。観光で訪れたい地域については、これまで訪れたことのある地域・スポットを含めて調査しました。

この結果、住みたい&観光で訪れたい地域(市区町村)はいずれも札幌が1位となり、さらに観光で訪れたい地域では函館も2位に入るなど、観光における北海道人気の高さが示されました。

住みたい地域(都道府県)を見ると、東京が1位、神奈川が3位で、特に「生活利便性・ヘルスケア」、「カルチャー・歴史・教育」、「居住」、「人的な関係性・地域の愛着」の観点からブランド力が高く評価されました。

当社では今後も、アンケート結果から得られる「地域ブランド向上」に求められるモノ・コトを定量的に分析することで、日本各地の活性化に貢献していきます。

【主な調査結果】

1. 住みたい・住んでみたいベスト3は、東京・北海道・神奈川(都道府県)／札幌・横浜・那覇(市区町村)

■ 日本全国の住みたい・住んでみたい地域をランキングで見ると、都道府県レベルでは、ベスト3が、東京都(1位)、北海道(2位)、神奈川県(3位)となった。

また、市区町村レベルでは、ベスト3が、札幌市(1位)、横浜市(2位)、那覇市(3位)となった。

…参照 P.7、10

2. 観光で訪れたい地域・スポットのベスト3は、北海道・沖縄・京都(都道府県)／札幌・函館・那覇(市区町村)

■ 日本全国の観光で訪れたい地域をランキングで見ると、都道府県レベルでは、ベスト3が、北海道(1位)、沖縄県

(2位)、京都府(3位)となった。

また、市区町村レベルでは、ベスト3が、札幌市(1位)、函館市(2位)、那覇市(3位)となった。

…参照 P.14、17

3. 居住地のある都道府県に将来にわたって住みたい割合は、北海道・広島・東京・高知が上位

- 都道府県単位で住みたい・住んでみたい地域として、居住地を選択しているのかどうかを集計したところ、北海道が最もその割合が高く、広島・東京・高知も上位に入った。

一方、大阪・新潟・山梨の居住者では、将来にわたって住み続けたいを選択した方がゼロという結果になった。

…参照 P.16

4. 居住地のある都道府県に観光で訪れたい割合は、三重・沖縄・北海道・広島・山口が上位

- 都道府県単位で観光に訪れたい地域・スポットとして、居住地を選択しているのかどうかを集計したところ、三重が最もその割合が高く、沖縄・北海道・広島・山口も上位に入った。

…参照 P.25

【本件に関するお問い合わせ先】

当社では、EBPM(Evidence Based Policy Making)の一環として、地域づくりのための評価指標(KPI)の開発、スコアリング(定量評価)等に取り組んでいます。

都道府県・市区町村に関するアンケート調査の詳細については、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

※各自治体のデータを保有しています。

■ 報道関係のお問い合わせ先 株式会社NTTデータ経営研究所 コーポレート統括本部 経営企画部 広報担当 Tel:03-5213-4016 E-mail: webmaster@keieiken.co.jp	■ 内容に関するお問い合わせ先 株式会社NTTデータ経営研究所 社会基盤事業本部 社会システムデザインユニット ／ライフ・バリュー・クリエイション・ユニット 實方 裕真、新見 友紀子、矢野 勝彦 Tel:03-5213-4295/4110
--	---

目 次

調査概要	4
調査結果	7
1. 住みたい・住んでみたい地域 アンケート調査結果.....	7
1.1. 住みたい・住んでみたい地域 ランキング(都道府県)	7
1.2. 住みたい・住んでみたい都道府県の分布(全国)	9
1.3. 住みたい・住んでみたい地域 ランキング(市区町村)	10
1.4. 住みたい・住んでみたい市区町村の分布(都道府県 1 位の東京のある関東地方について抜粋)	11
1.5. 住みたい・住んでみたい地域 市町村ランキング(自治体区分別)	12
1.6. 住みたい・住んでみたい地域 選択理由	14
1.7. 現在の居住地のある都道府県に将来にわたって住みたい割合	16
2. 観光で訪れたい地域 スポット アンケート調査結果.....	17
2.1. 観光で訪れたい地域・スポット ランキング(都道府県)	17
2.2. 観光で訪れたい都道府県の分布(全国)	19
2.3. 観光で訪れたい地域・スポット ランキング(市区町村)	20
2.4. 観光で訪れたい市区町村の分布(都道府県 1 位の北海道地方について抜粋)	21
2.5. 観光で訪れたい地域・スポット 市町村ランキング(自治体区分別)	22
2.6. 観光で訪れたい地域・スポット 選択理由	23
2.7. 現在の居住地のある都道府県に観光で訪れたい割合	25

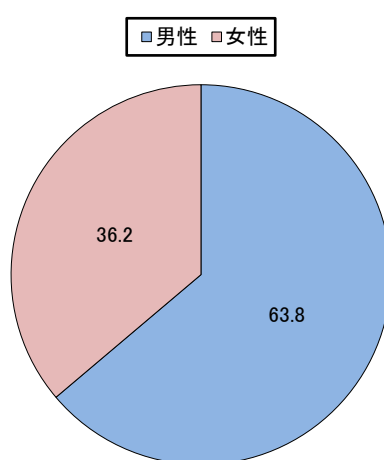
調査概要

1. 調査対象: NTTコム リサーチ クローズド調査(*1)
全国における18歳以上のモニター
2. 調査方法: 非公開型インターネットアンケート
3. 調査期間: 2018年8月3日～2018年8月9日(2018年夏季の1週間)
4. 有効回答者数:1,096人
5. 回答者の属性:

■性別

回答者の性別を見ると、男性が多かった。

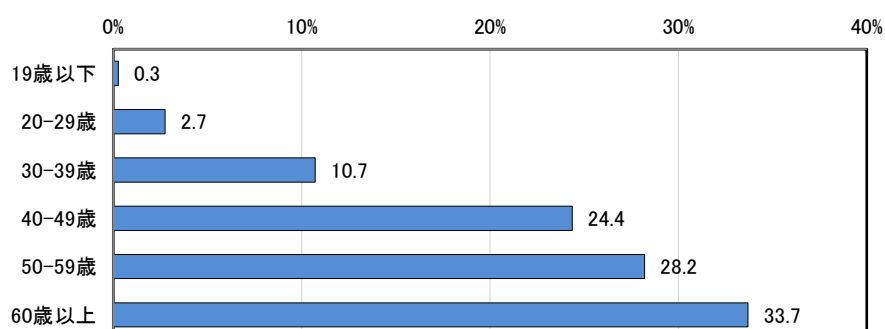
図表 回答者性別



■年齢

回答者の年齢を見ると、60歳以上の高齢層、次いで50代が多かった。

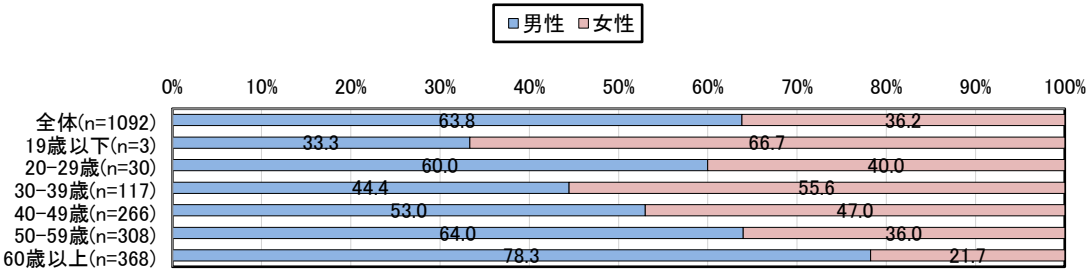
図表 回答者年齢



■性別×年齢

性別と年齢別のクロス集計で見ると、60歳以上、50代、20代の順で、男性の回答者数が多かった。また、19歳以下、30代で女性の回答者が多かった。

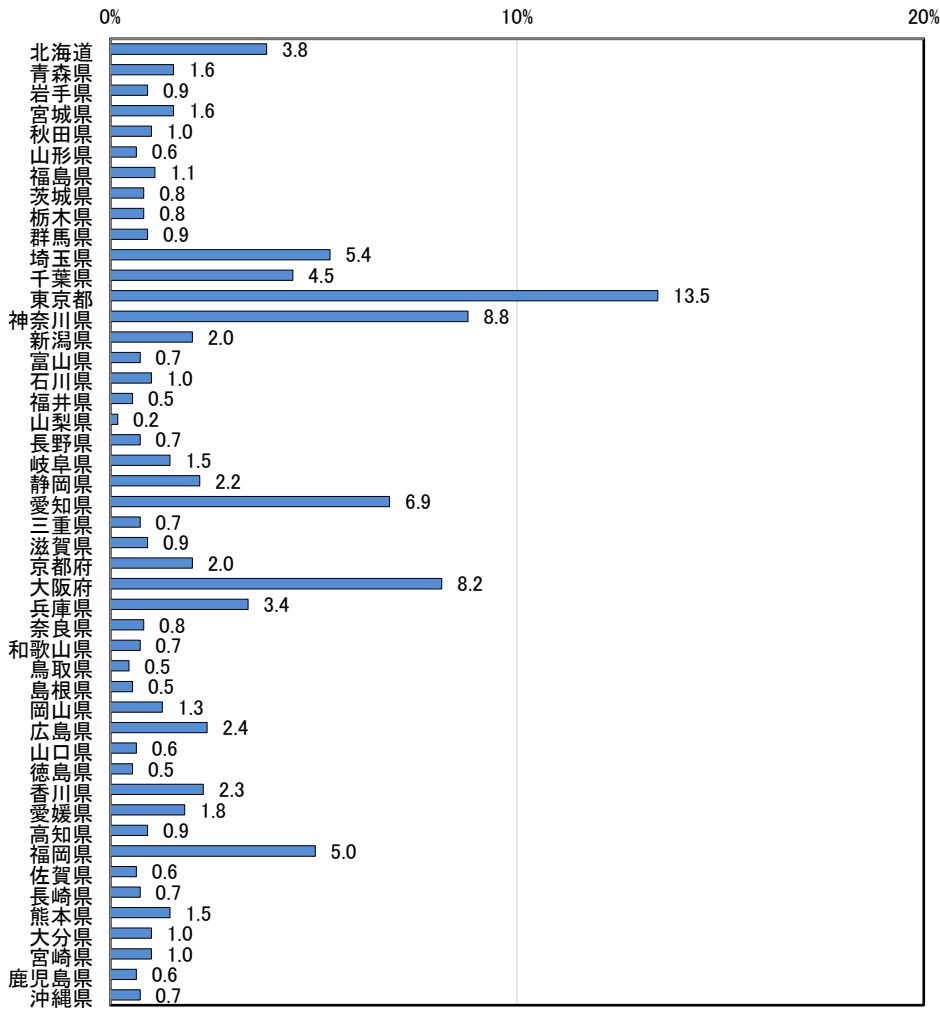
図表 回答者 性別×年齢 クロス集計



■居住地(参考)

居住地は、人口比例で割付を行った。

図表 回答者居住地



※H27 国勢調査を元に 20 代以上の人口で算出。

注意)本調査では全国のモニターに対し調査を実施した。回答者のうち男性が女性の約 1.8 倍になっており、男性が多いこと、また高齢層の回答が多いことに注意が必要である。

【補足】

(*1)「NTT コム リサーチ <http://research.nttcoms.com/>

NTT コム オンライン・マーケティング・ソリューション株式会社(<http://nttcoms.com/>)が提供する、高品質で付加価値の高いインターネットリサーチ・サービスである。

自社保有パネルとしては国内最大級のモニター基盤(2018 年 11 月現在 217 万会員)を保有するとともに、「モニターの品質」「調査票の品質」「アンケートシステムの品質」「回答結果の品質」の4つを柱とした「クオリティポリシー」に基づく徹底した品質確保を行い、信頼性の高い調査結果を提供するインターネットリサーチとして、多くの企業・団体に利用されている。

調査結果

1. 住みたい・住んでみたい地域 アンケート調査結果

日本全国の18歳以上の男女に、「将来住みたい、住んでみたい地域」について調査を実施した(1人最大3地域まで回答することを可能とした)。将来にわたって現在の居住地に住み続けたい場合には、現在の居住地を回答することを求めた。当該地域について、都道府県、市区町村ともにあわせて聞いている。(総回答数(N): 2,234)

1.1. 住みたい・住んでみたい地域 ランキング(都道府県)

都道府県レベルでの「住みたい・住んでみたい地域」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。

全国ベスト5は、東京都(1位)、北海道(2位)、神奈川県(3位)、沖縄県(4位)、大阪府(5位)となった。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 都道府県ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
東京都 (n=311)	北海道 (n=203)	神奈川県 (n=194)	沖縄県 (n=144)	大阪府 (n=122)	福岡県 (n=105)	愛知県 (n=100)	京都府 (n=86)	千葉県 (n=77)	兵庫県 (n=68)

ランキングは、「ブランド力・要因」別でも集計している。①自然環境、都市環境に関するブランド力・要因、②生活利便性・ヘルスケアに関するブランド力・要因、③アミューズメント・歴史・教育に関するブランド力・要因、④食に関するブランド力・要因、⑤雇用・ものづくりに関するブランド力・要因、⑥居住・宿泊に関するブランド力・要因、⑦人的な関係性・地域への愛着に関する要因の大きく7つの観点で、集計を行った。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 都道府県 「ブランド力・要因」別ランキング

順位	自然環境、都市環境に関する ブランド力・要因	生活利便性・ヘルスケアに関する ブランド力・要因	カルチャー・歴史・教育に関する ブランド力・要因	食に関するブランド力・要因	雇用に関するブランド力・要因	居住に関するブランド力・要因	人的な関係性・地域への愛着に関する 要因
1位	北海道	東京都	東京都	北海道	東京都	東京都	東京都
2位	沖縄県	神奈川県	神奈川県	神奈川県	北海道	神奈川県	神奈川県
3位	神奈川県	大阪府	京都府	福岡県	神奈川県	北海道	大阪府
4位	静岡県	北海道	北海道	沖縄県	福岡県	兵庫県	北海道
5位	長野県	愛知県	福岡県	静岡県	愛知県	福岡県	福岡県
6位	京都府	福岡県	沖縄県	愛媛県	兵庫県	大阪府	愛知県
7位	東京都	兵庫県	大阪府	大分県	大阪府	沖縄県	埼玉県
8位	福岡県	千葉県	愛知県	長野県	大分県	愛知県	沖縄県
9位	愛媛県	宮城県	兵庫県	千葉県	高知県	京都府	香川県
10位	兵庫県	京都府	長野県	宮城県	沖縄県	大分県	京都府

※「ブランド力・要因」と「地域選択の理由」に関する対応関係は以下の通り。

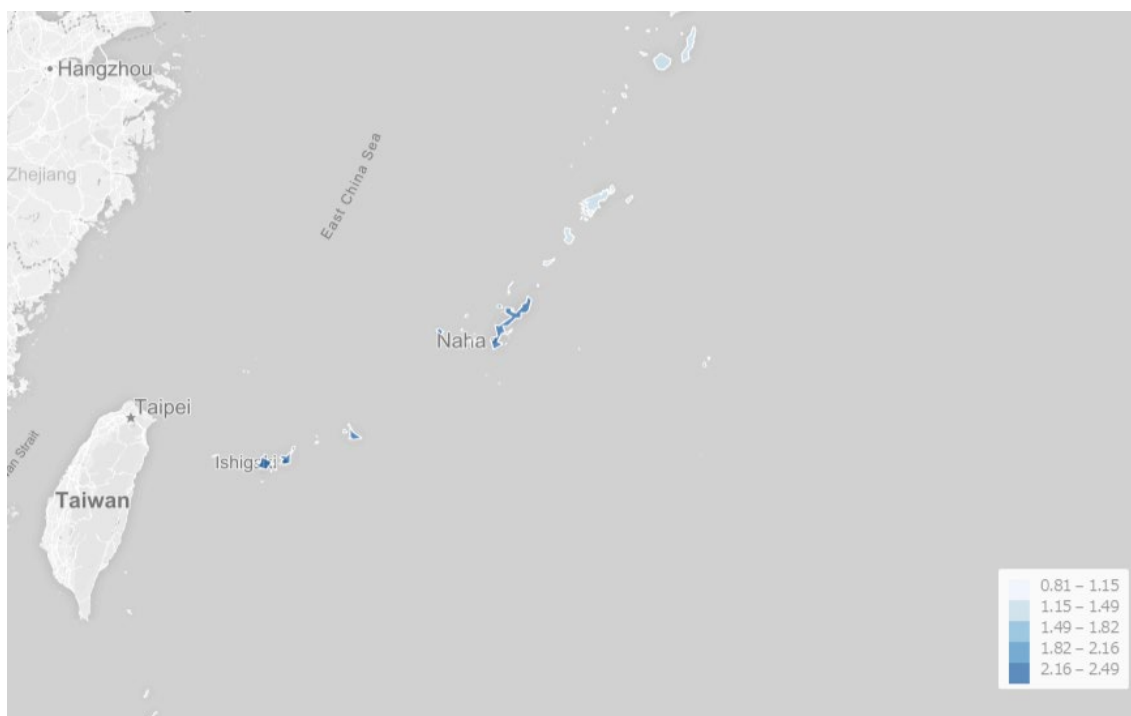
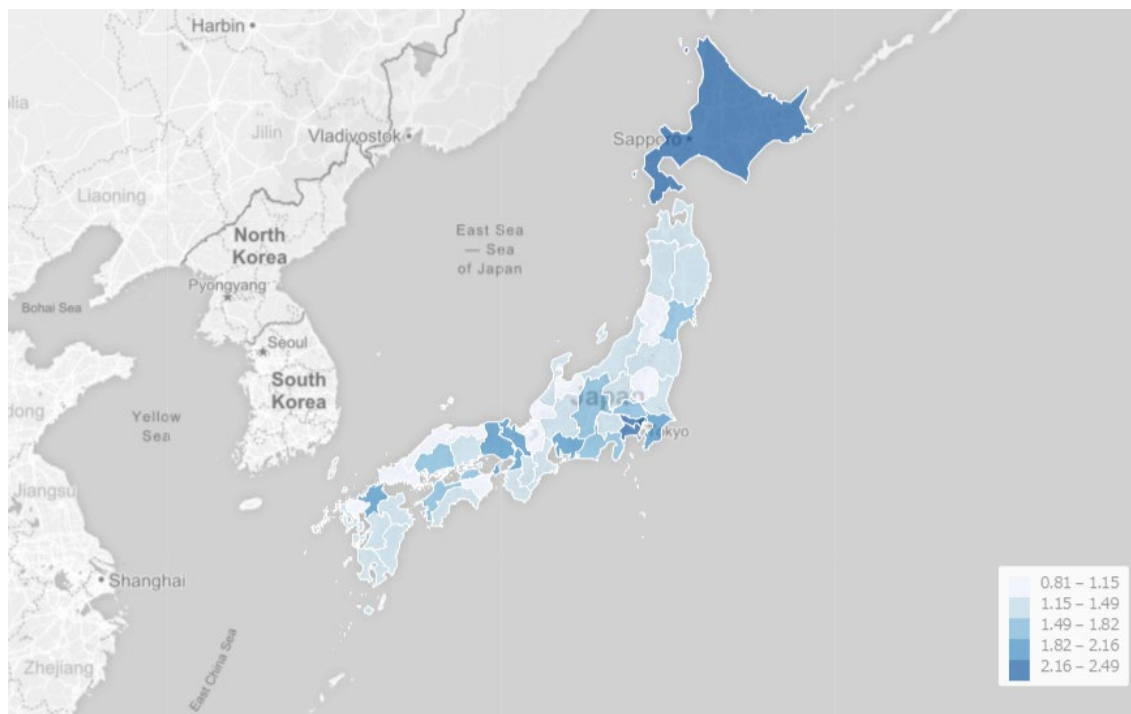
ブランド力・要因	地域選択の理由(選択式、MA) ¹
自然環境、都市環境に関するブランド力・要因	気候がよい
	景色、風景がよい
	名勝地、自然公園、都市公園等がある
生活利便性・ヘルスケアに関するブランド力・要因	交通の便がよい
	買い物がしやすい
	病院、福祉施設、保育施設等が充実している
カルチャー・歴史・教育に関するブランド力・要因	カルチャーセンター、美術館、コンサートホール、スポーツ施設等が充実している
	歴史、文化が感じられる
	子供の教育環境や子育て支援制度等が充実している
食に関するブランド力・要因	農産物、畜産物が豊富でおいしい
	海産物が豊富でおいしい
	地域の特産の加工食品、伝統食等がおいしい
雇用に関するブランド力・要因	雇用の場としての選択肢が多い
	具体的にやってみたい仕事ができる場所、会社等がある
	移住支援策、起業・創業チャレンジ支援策等が充実している
居住に関するブランド力・要因	居住にかかるコストが比較的安価である(家賃、地代、地価等)
	高級なイメージがある
	具体的に住みたい物件がある
人的な関係性・地域への愛着に関する要因	家族、親族が住んでいる
	知人、友人が住んでいる
	地域にあこがれや愛着がある

¹ 地域選択の理由について、設定された選択肢以外のものがある場合、「上記以外の理由がある」とした上で、自由記述式で具体的に聞いている。

1.2. 住みたい・住んでみたい都道府県の分布(全国)

本データは 47 都道府県で集計している。地図で分布を見ると、以下の通りとなる。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 都道府県の分布



1.3. 住みたい・住んでみたい地域 ランキング(市区町村)

市区町村レベルでの「住みたい・住んでみたい地域」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。

全国ベスト5は、札幌市(1位)、横浜市(2位)、那覇市(3位)、京都市(4位)、大阪市(5位)となった。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 市区町村ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
札幌市 (n=122)	横浜市 (n=116)	那覇市 (n=86)	京都市 (n=76)	大阪市 (n=66)	福岡市 (n=66)	名古屋市 (n=63)	港区 (n=47)	函館市 (n=45)	世田谷区 (n=45)

ランキングは、要因別でも集計している。(都道府県と同様)

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 市区町村 「ブランド力・要因」別ランキング

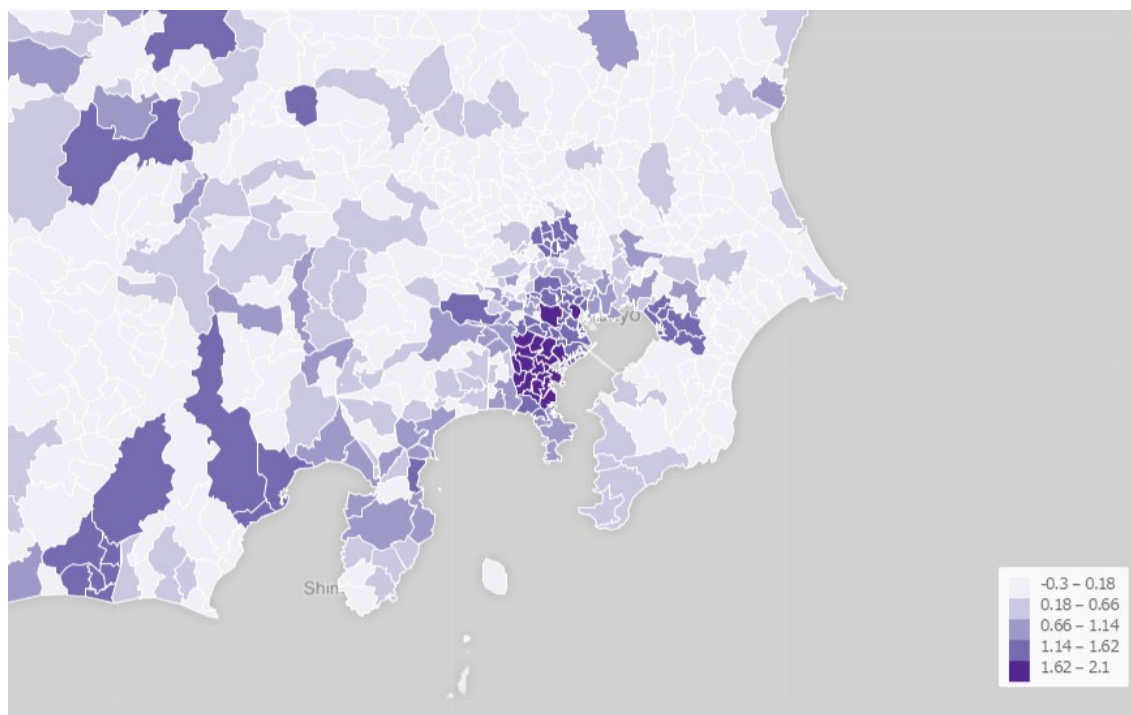
順位	自然環境、都市環境に関する ブランド力・要因	生活利便性・ヘルスケアに関する ブランド力・要因	カルチャー・歴史・教育に関する ブランド力・要因	食に関するブランド力・要因	雇用に関するブランド力・要因	居住に関するブランド力・要因	人的な関係性・地域への愛着 に関する要因
1位	札幌市	横浜市	京都市	札幌市	福岡市	港区	横浜市
2位	那覇市	札幌市	横浜市	函館市	新宿区	横浜市	大阪市
3位	横浜市	名古屋市	福岡市	福岡市	目黒区	目黒区	札幌市
4位	京都市	大阪市	鎌倉市	鎌倉市	札幌市	世田谷区	福岡市
5位	鎌倉市	福岡市	札幌市	横浜市	港区	鎌倉市	京都市
6位	石垣市	目黒区	港区	那覇市	品川区	渋谷区	名古屋市
7位	函館市	世田谷区	新宿区	石垣市	名古屋市	千代田区	港区
8位	松本市	港区	目黒区	小樽市	千代田区	新宿区	高松市
9位	福岡市	京都市	那覇市	大分市	文京区	文京区	目黒区
10位	小樽市	川崎市	函館市	松山市	中央区	中央区	世田谷区

※全国の市区町村別のデータについて集計。

1.4. 住みたい・住んでみたい市区町村の分布(都道府県 1 位の東京のある関東地方について抜粋)

都道府県の全国集計で 1 位となった東京都における住みたい・住んでみたい市区町村の地域分布は以下の通りである。

図 「住みたい・住んでみたい地域」 市区町村の分布（関東地方の抜粋）



1.5. 住みたい・住んでみたい地域 市町村ランキング(自治体区分別)

都道府県の全国集計で1位となった東京都における東京23区内での「住みたい・住んでみたい地域」ランキング(ベスト5)は下記の通り。

東京23区のランキングでは、全国の市区町村ランキングでも上位であった港区(1位)、世田谷区(2位)の他、目黒区(3位)、渋谷区(4位)、品川区(5位)、文京区(5位)がランキングに入った。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 東京23区ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	5位
港区 (n=47)	世田谷区 (n=45)	目黒区 (n=39)	渋谷区 (n=34)	品川区 (n=26)	文京区 (n=26)

続いて、全国の市町村別でランキングを集計した。

市レベルでの「住みたい・住んでみたい地域」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。

市ベスト10は、市区町村ランキングで挙げられた1位～8位の他に、鎌倉市(9位)、石垣市(10位)がランキングに入った。ランキング外の市を併せると514の市が住みたい市に挙げられた。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 市ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
札幌市 (n=122)	横浜市 (n=116)	那覇市 (n=86)	京都市 (n=76)	大阪市 (n=66)	福岡市 (n=66)	名古屋市 (n=63)	函館市 (n=45)	鎌倉市 (n=42)	石垣市 (n=39)

町レベルでの「住みたい・住んでみたい地域」全国ランキング(ベスト5)は下記の通り。

町ベスト5は、軽井沢町(1位)、与那国町(2位)、美瑛町(3位)、竹富町(3位)、上富良野町(5位)、箱根町(5位)、真鶴町(5位)となった。ランキング外の町も併せると179の町が住みたい町に挙げられた。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 町ランキング

1位	2位	3位	3位	5位	5位	5位
軽井沢町 (n=15)	与那国町 (n=14)	美瑛町 (n=11)	竹富町 (n=11)	上富良野町 (n=8)	箱根町 (n=8)	真鶴町 (n=8)

村レベルでの「住みたい・住んでみたい地域」全国ランキング(ベスト5)は下記の通り。

村ベスト5は、恩納村(1位)、白馬村(2位)、小笠原村(3位)、山中湖村(3位)、小谷村(3位)、南阿蘇村(3位)、今帰仁村(3位)、読谷村(3位)、渡嘉敷村(3位)となった。ランキング外の村も併せると52の村が住みたい村に挙げられた。

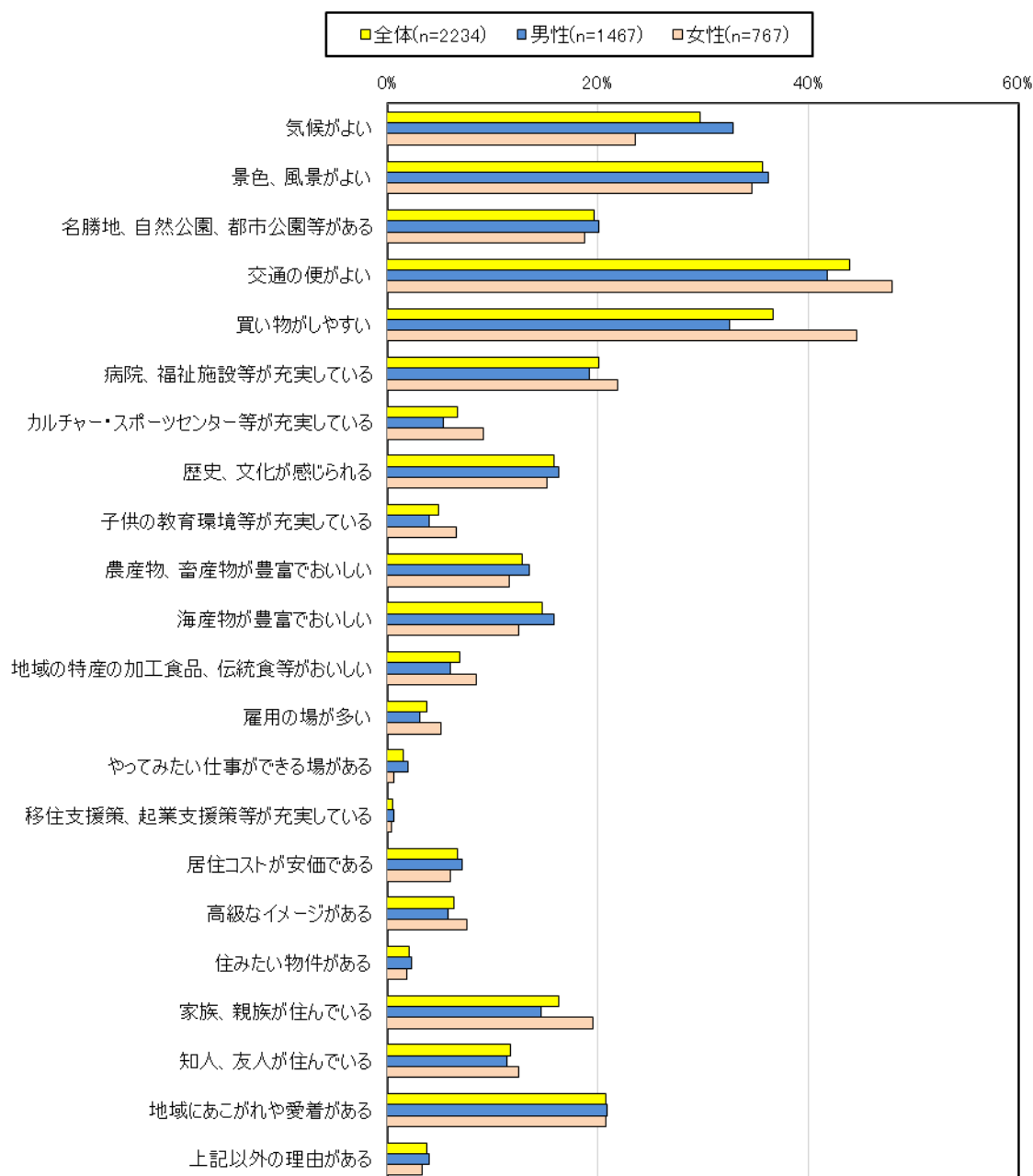
図表 「住みたい・住んでみたい地域」 村ランキング

1 位	2 位	3 位	3 位	3 位	3 位	3 位	3 位	3 位
恩納村 (n=9)	白馬村 (n=5)	小笠原村 (n=4)	山中湖村 (n=4)	小谷村 (n=4)	南阿蘇村 (n=4)	今帰仁村 (n=4)	読谷村 (n=4)	渡嘉敷村 (n=4)

1.6. 住みたい・住んでみたい地域 選択理由

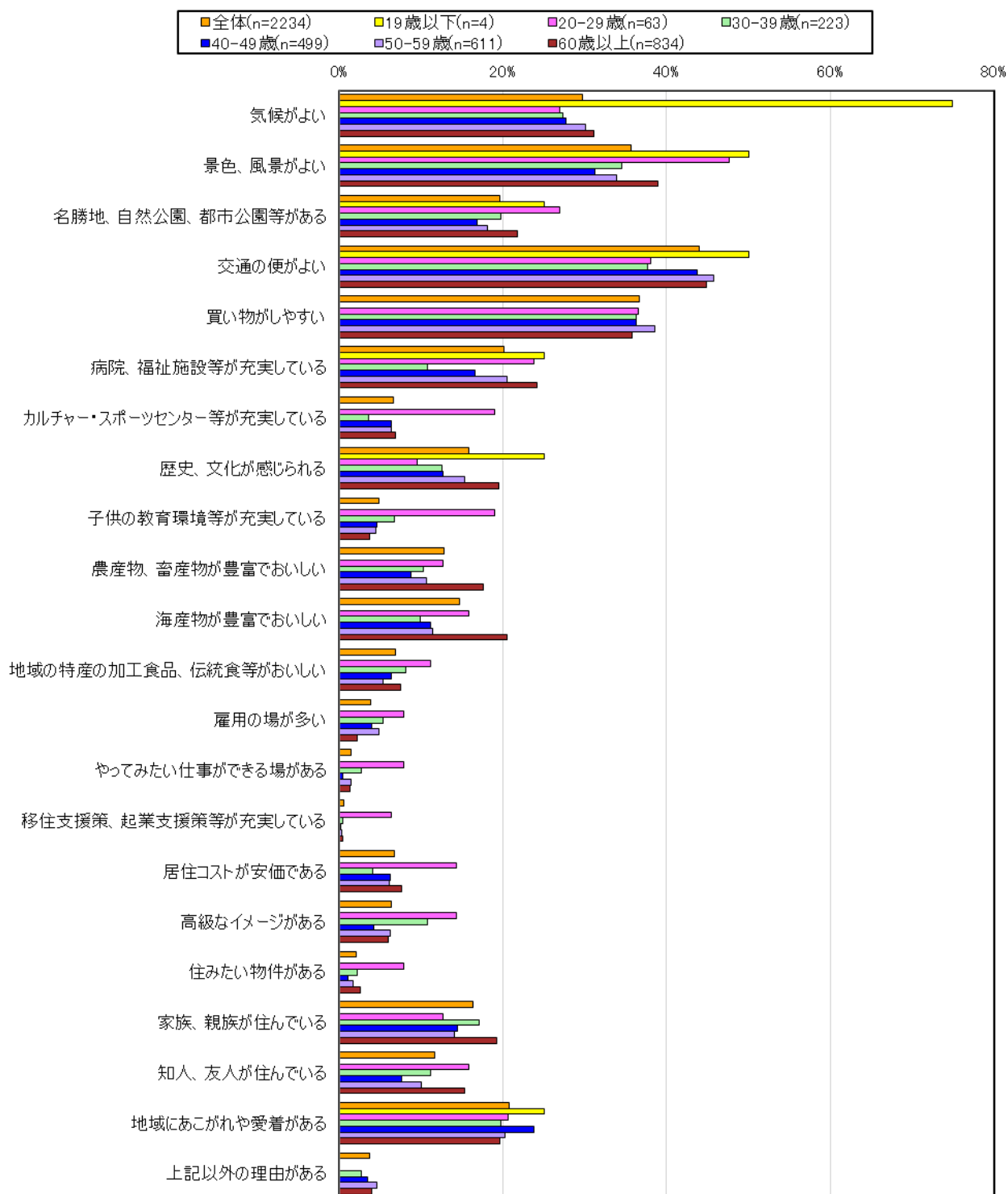
日本全国の「住みたい・住んでみたい地域」選択の理由について、男女別の分布について、集計した結果が下記である。男女ごとの割合で見ると、男性では、「景色、風景が良い」、「交通の便が良い」、「買い物がしやすい」が、女性では、「交通の便が良い」、「買い物がしやすい」、「景色、風景が良い」がそれぞれ上位に來ていることが分かる。男女で差が出ている項目としては、「買い物がしやすい」、「交通の便がよい」が女性に特に多く、「気候が良い」、「海産物が豊富でおいしい」が男性に特に多いことが分かる。

図 「住みたい・住んでみたい地域」選択の理由 男女別の割合



次に年代別の割合で見ると、全般的に、「交通の便がよい」「買い物がしやすい」が重視されていることが分かるとともに、サンプル数の多い 60 歳以上で、「海産物が豊富でおいしい」、「農産物、畜産物が豊富でおいしい」の割合が高い。その他、19 歳以下については、サンプル数が少ないため参考値としてみる必要があるが、「気候がよい」「景色、風景がよい」等が重視されていることが分かる。

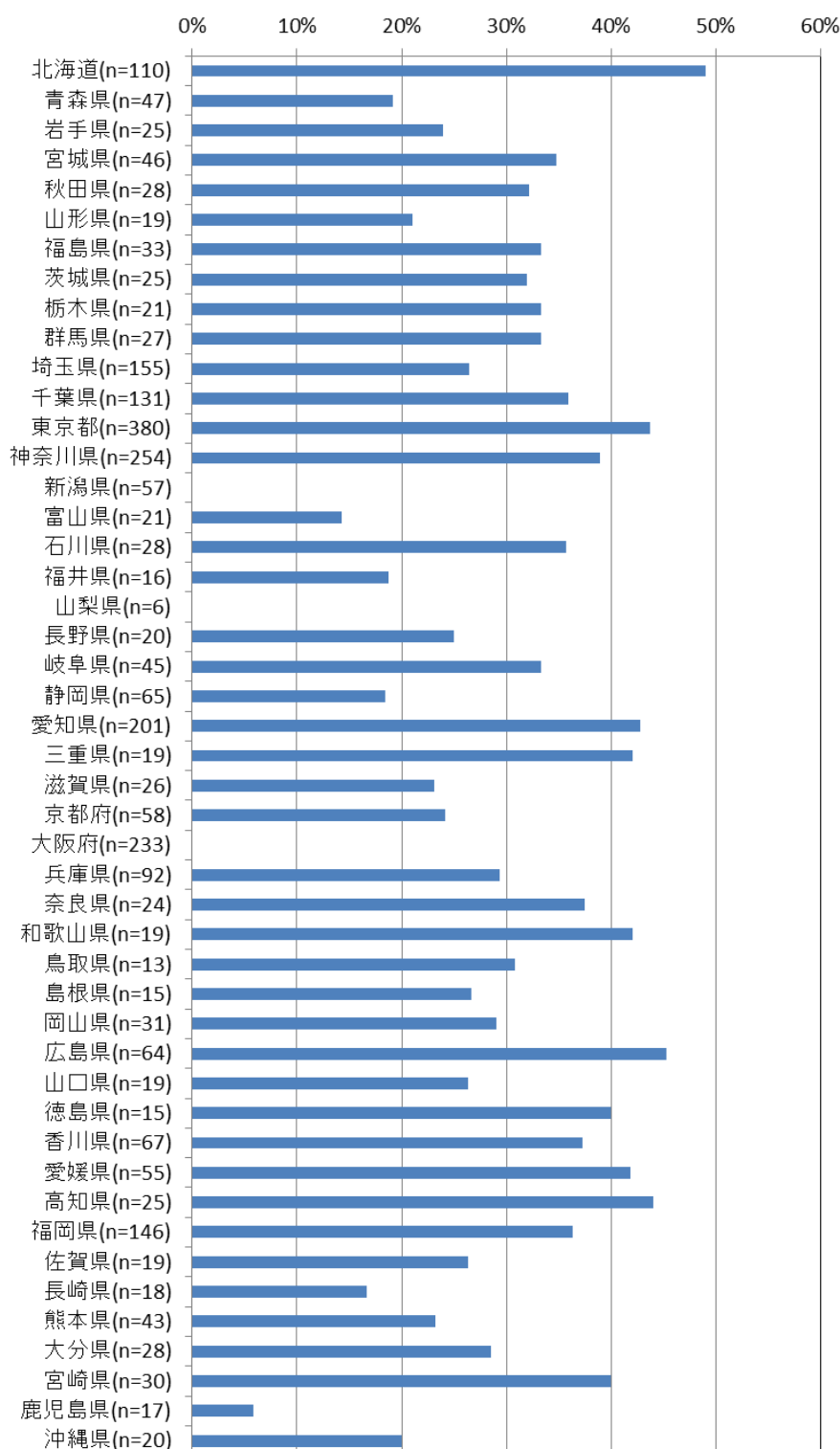
図 「住みたい・住んでみたい地域」選択の理由 年齢別の割合



1.7. 現在の居住地のある都道府県に将来にわたって住みたい割合

本アンケート調査では、回答者の居住地について、都道府県単位で聞いている。そこで、住みたい・住んでみたい地域として、居住地を選択しているのかどうかについて集計したところ、以下の通りとなった。北海道、広島県、東京都、高知県などが上位にきている。一方、新潟県、山梨県、大阪府の居住者で、将来にわたってその地域に住み続けたいと選択した人はゼロという結果となった。

図 現在の居住地のある都道府県を「住みたい・住んでみたい地域」とした回答割合



2. 観光で訪れたい地域 スポット アンケート調査結果

日本全国の18歳以上の男女に、「観光で訪れたい地域・スポット」について調査を実施した(1人最大3地域まで回答することを可能とした)。これまで訪れたことのある地域・スポットを含めて、観光で訪れたい地域・スポットについて回答を求めた。当該地域について、都道府県、市区町村ともにあわせて聞いている。(総回答数(N): 2473)

2.1. 観光で訪れたい地域・スポット ランキング(都道府県)

都道府県レベルでの「観光で訪れたい地域・スポット」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。
全国ベスト5は、北海道(1位)、沖縄県(2位)、京都府(3位)、東京都(4位)、長野県(5位)となった。

図表 「観光で訪れたい地域・スポット」 都道府県ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
北海道 (n=578)	沖縄県 (n=348)	京都府 (n=202)	東京都 (n=110)	長野県 (n=85)	石川県 (n=80)	神奈川県 (n=79)	長崎県 (n=54)	鹿児島県 (n=52)	青森県 (n=49)

ランキングは、「ブランド力・要因」別でも集計している。①自然環境、都市環境に関するブランド力・要因、②生活利便性・ヘルスケアに関するブランド力・要因、③アミューズメント・歴史・教育に関するブランド力・要因、④食に関するブランド力・要因、⑤ものづくりに関するブランド力・要因、⑥宿泊に関するブランド力・要因、⑦人的な関係性・地域への愛着に関する要因の大きく7つの観点で、集計を行った。

図表 「観光で訪れたい地域・スポット」 都道府県 「ブランド力・要因」別ランキング

順位	自然環境、都市環境に関する ブランド力・要因	生活利便性・ヘルスケアに関する ブランド力・要因	アミューズメント・歴史・教育 に関するブランド力・要因	食に関するブランド力・要因	ものづくりに関するブランド 力・要因	宿泊に関するブランド力・要因	人的な関係性・地域への愛着 に関する要因
1位	北海道	北海道	京都府	北海道	京都府	北海道	北海道
2位	沖縄県	東京都	北海道	沖縄県	沖縄県	沖縄県	沖縄県
3位	京都府	京都府	沖縄県	石川県	北海道	東京都	東京都
4位	長野県	神奈川県	東京都	京都府	石川県	京都府	京都府
5位	石川県	沖縄県	神奈川県	福岡県	東京都	長野県	神奈川県
6位	神奈川県	大阪府	石川県	長野県	長野県	石川県	大阪府
7位	鹿児島県	福岡県	長崎県	長崎県	岐阜県	神奈川県	鹿児島県
8位	青森県	長野県	大阪府	青森県	鹿児島県	山梨県	広島県
9位	静岡県	石川県	奈良県	静岡県	大阪府	大分県	長野県
10位	長崎県	大分県	千葉県	鹿児島県	神奈川県	福岡県	福岡県

※「ブランド力・要因」と「地域選択の理由」に関する対応関係は以下の通り。

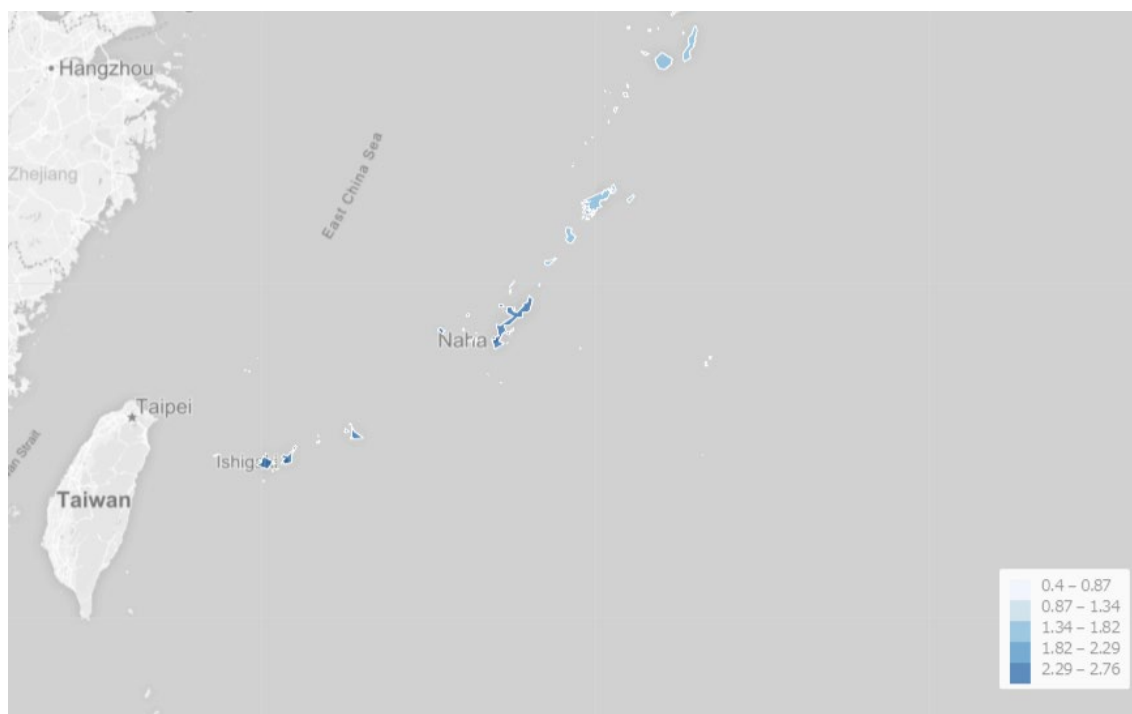
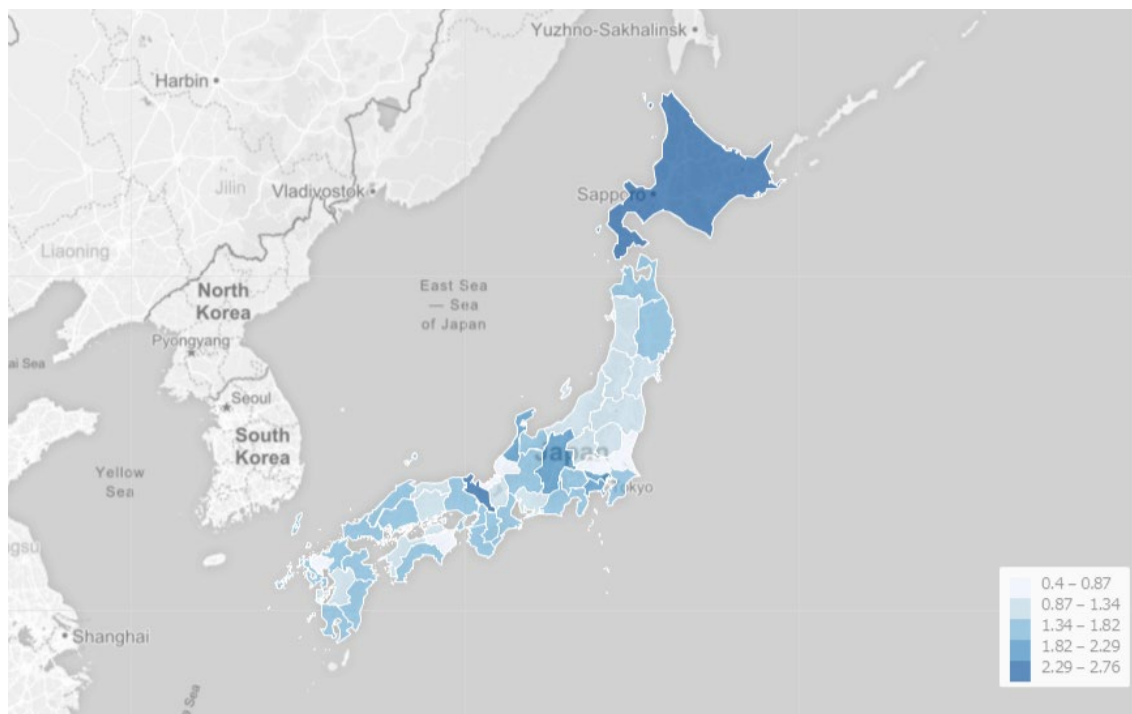
ブランド力・要因	地域選択の理由(選択式、MA) ²
自然環境、都市環境に関するブランド力・要因	気候がよい
	景色、風景がよい
	名勝地、自然公園、都市公園等がある
生活利便性・ヘルスケアに関するブランド力・要因	交通の便がよい
	買い物しやすい
	温泉・スパ、マッサージ、リラクゼーションサービス等がある
アミューズメント・歴史・教育に関するブランド力・要因	テーマパーク、アミューズメント施設、美術館、コンサートホール、スポーツ施設等がある
	歴史、文化が感じられる
	子供向けの施設、体験サービス等がある
食に関するブランド力・要因	農産物、畜産物が豊富でおいしい
	海産物が豊富でおいしい
	地域の特産の加工食品、伝統食等がおいしい
ものづくりに関するブランド力・要因	先進的な工業製品が充実・集積している
	伝統を活かした工芸品等が充実・集積している
	ものづくり、手芸等を体験できる場が充実している
宿泊に関するブランド力・要因	宿泊、滞在にかかるコストが比較的安価である
	高級なイメージがある
	具体的に宿泊してみたいホテル、旅館等がある
人的な関係性・地域への愛着に関する要因	家族、親族が住んでいる
	知人、友人が住んでいる
	地域にアコがれや愛着がある

² 地域選択の理由について、設定された選択肢以外のものがある場合、「上記以外の理由がある」とした上で、自由記述式で具体的に聞いている。

2.2. 観光で訪れたい都道府県の分布(全国)

本データは 47 都道府県で集計している。地図で分布を見ると、以下の通りとなる。

図表 「観光で訪れたい地域・スポット」 都道府県の分布



2.3. 観光で訪れたい地域・スポット ランキング(市区町村)

市区町村レベルでの「観光で訪れたい地域・スポット」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。

全国ベスト5は、札幌市(1位)、函館市(2位)、那覇市(3位)、京都市(4位)、小樽市(5位)となった。

図表 「観光で訪れたい地域・スポット」 市区町村ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
札幌市 (n=308)	函館市 (n=225)	那覇市 (n=210)	京都市 (n=194)	小樽市 (n=145)	石垣市 (n=104)	金沢市 (n=71)	竹富町 (n=65)	旭川市 (n=65)	釧路市 (n=59)

ランキングは、要因別でも集計している。(都道府県と同様)

図表 「観光で訪れたい地域・スポット」 市区町村 「ブランド力・要因」別ランキング

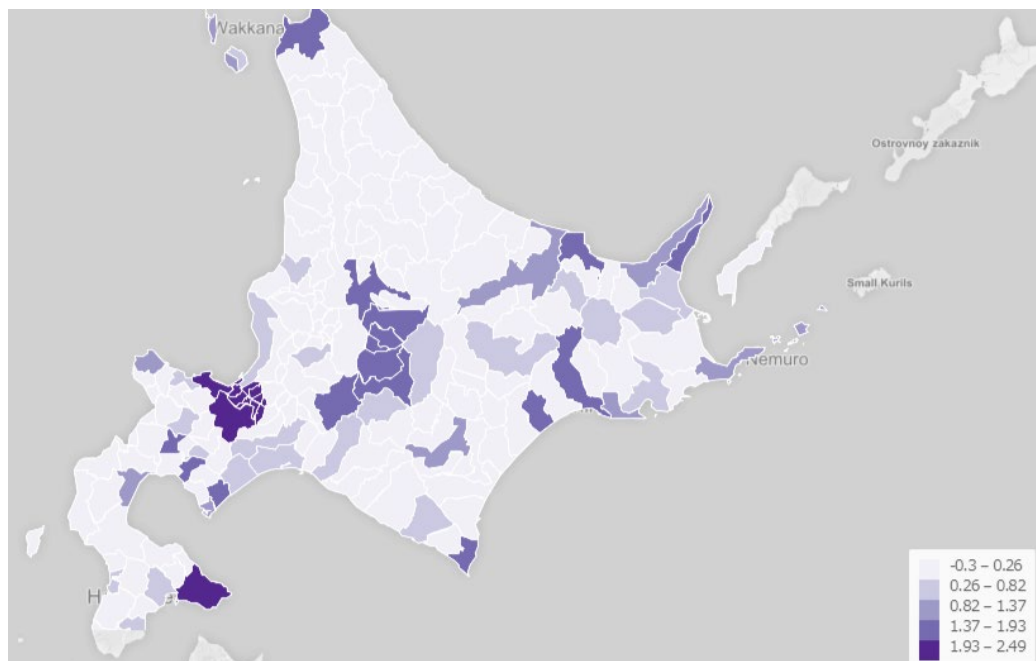
順位	自然環境、都市環境に関する ブランド力・要因	生活利便性・ヘルスケアに関する ブランド力・要因	アミューズメント・歴史・教育に 関するブランド力・要因	食に関するブランド力・要因	ものづくりに関するブランド 力・要因	宿泊に関するブランド力・要因	人的な関係性・地域への愛着に 関する要因
1位	札幌市	札幌市	京都市	札幌市	京都市	函館市	札幌市
2位	函館市	函館市	那覇市	函館市	那覇市	那覇市	函館市
3位	那覇市	小樽市	函館市	小樽市	金沢市	札幌市	京都市
4位	小樽市	京都市	札幌市	那覇市	函館市	京都市	那覇市
5位	京都市	新宿区	小樽市	旭川市	小樽市	石垣市	小樽市
6位	石垣市	中央区	金沢市	釧路市	札幌市	小樽市	石垣市
7位	釧路市	千代田区	大阪市	富良野市	石垣市	新宿区	新宿区
8位	旭川市	港区	石垣市	美瑛町	宇治市	竹富町	大阪市
9位	富良野市	渋谷区	宇治市	金沢市	高山市	中央区	竹富町
10位	竹富町	那覇市	長崎市	石垣市	釧路市	千代田区	千代田区

※全国の市区町村別のデータについて集計。

2.4. 観光で訪れたい市区町村の分布(都道府県 1 位の北海道地方について抜粋)

都道府県の全国集計で 1 位となった北海道における観光で訪れたい市区町村の地域分布は以下の通りである。

図 「観光で訪れたい地域・スポット」 市区町村の分布（北海道地方の抜粋）



2.5. 観光で訪れたい地域・スポット 市町村ランキング(自治体区分別)

都道府県の全国集計で1位となった北海道における「観光で訪れたい地域・スポット」ランキング(ベスト5)は下記の通り。

北海道のランキングでは、全国の市区町村ランキングでも上位であった札幌市(1位)、函館市(2位)、小樽市(3位)、旭川市(4位)、釧路市(5位)がランキングに入った。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 北海道ランキング

1位	2位	3位	4位	5位
札幌市 (n=308)	函館市 (n=225)	小樽市 (n=145)	旭川市 (n=65)	釧路市 (n=59)

続いて、全国の市町村別でランキングを集計した。

市レベルでの「観光で訪れたい地域・スポット」全国ランキング(ベスト10)は下記の通り。

市ベスト10は、市区町村ランキングで挙がっていた1位～9位の他に、宮古市(10位)がランキングに入った。ランキング外の市を併せると418の市が観光で訪れたい市に挙げられた。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 市ランキング

1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
札幌市 (n=308)	函館市 (n=225)	那覇市 (n=210)	京都市 (n=194)	小樽市 (n=145)	石垣市 (n=104)	金沢市 (n=71)	旭川市 (n=65)	釧路市 (n=59)	宮古市 (n=58)

町レベルでの「観光で訪れたい地域・スポット」全国ランキング(ベスト5)は下記の通り。

町ベスト5は、竹富町(1位)、美瑛町(2位)、与那国町(3位)、上富良野町(3位)、羅臼町(5位)となった。ランキング外の町も併せると196の町が住観光で訪れたい町に挙げられた。

図表 「住みたい・住んでみたい地域」 町ランキング

1位	2位	3位	3位	5位
竹富町 (n=65)	美瑛町 (n=52)	与那国町 (n=43)	上富良野町 (n=43)	羅臼町 (n=41)

村レベルでの「観光で訪れたい地域・スポット」全国ランキング(ベスト5)は下記の通り。

村ベスト5は、恩納村(1位)、白馬村(2位)、間味村(3位)、読谷村(4位)、渡嘉敷村(5位)となった。ランキング外の村も併せると69の村が観光で訪れたい村に挙げられた。

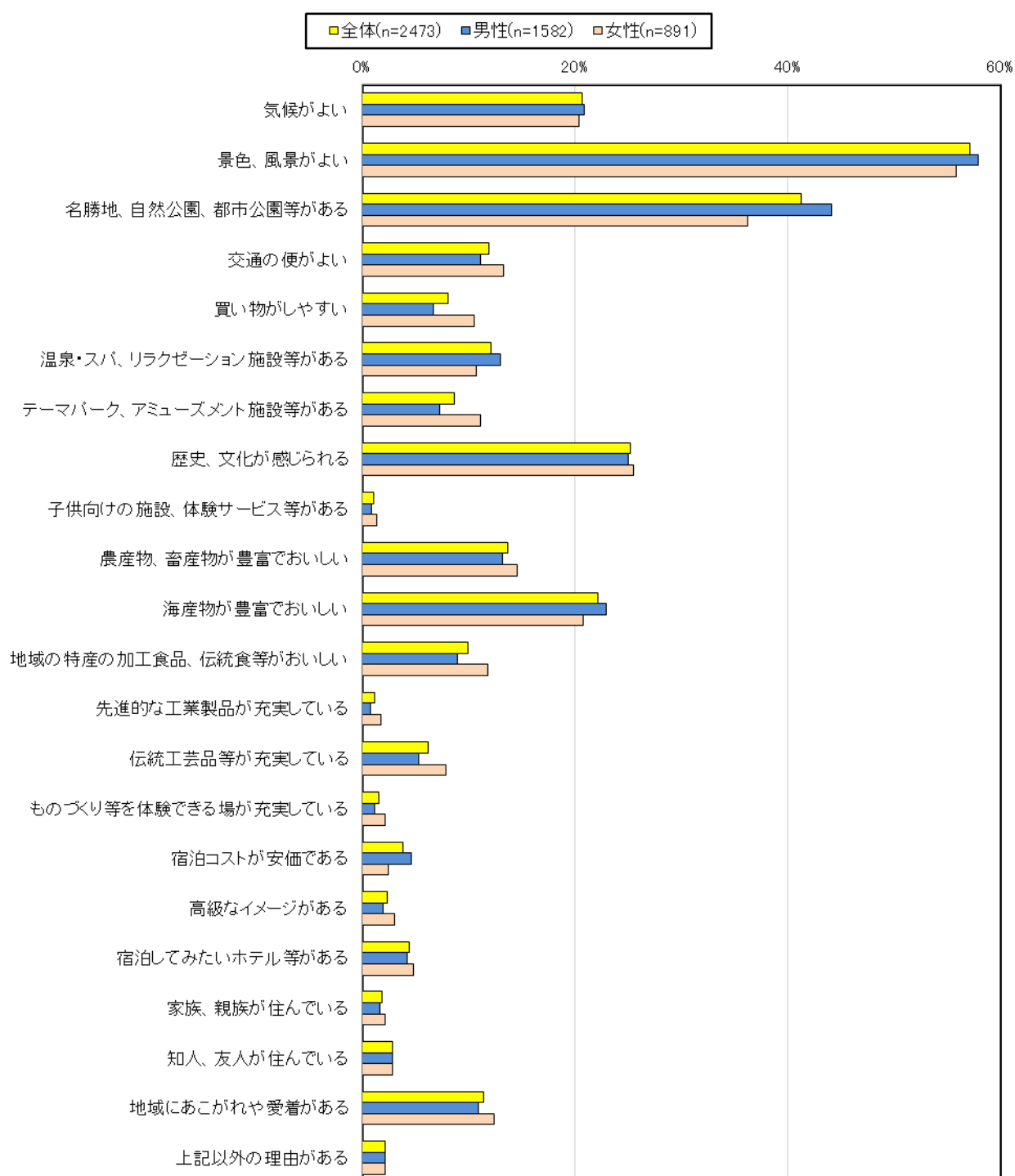
図表 「住みたい・住んでみたい地域」 村ランキング

1位	2位	3位	4位	5位
恩納村 (n=30)	白馬村 (n=13)	座間味村 (n=12)	読谷村 (n=10)	渡嘉敷村 (n=8)

2.6. 観光で訪れたい地域・スポット 選択理由

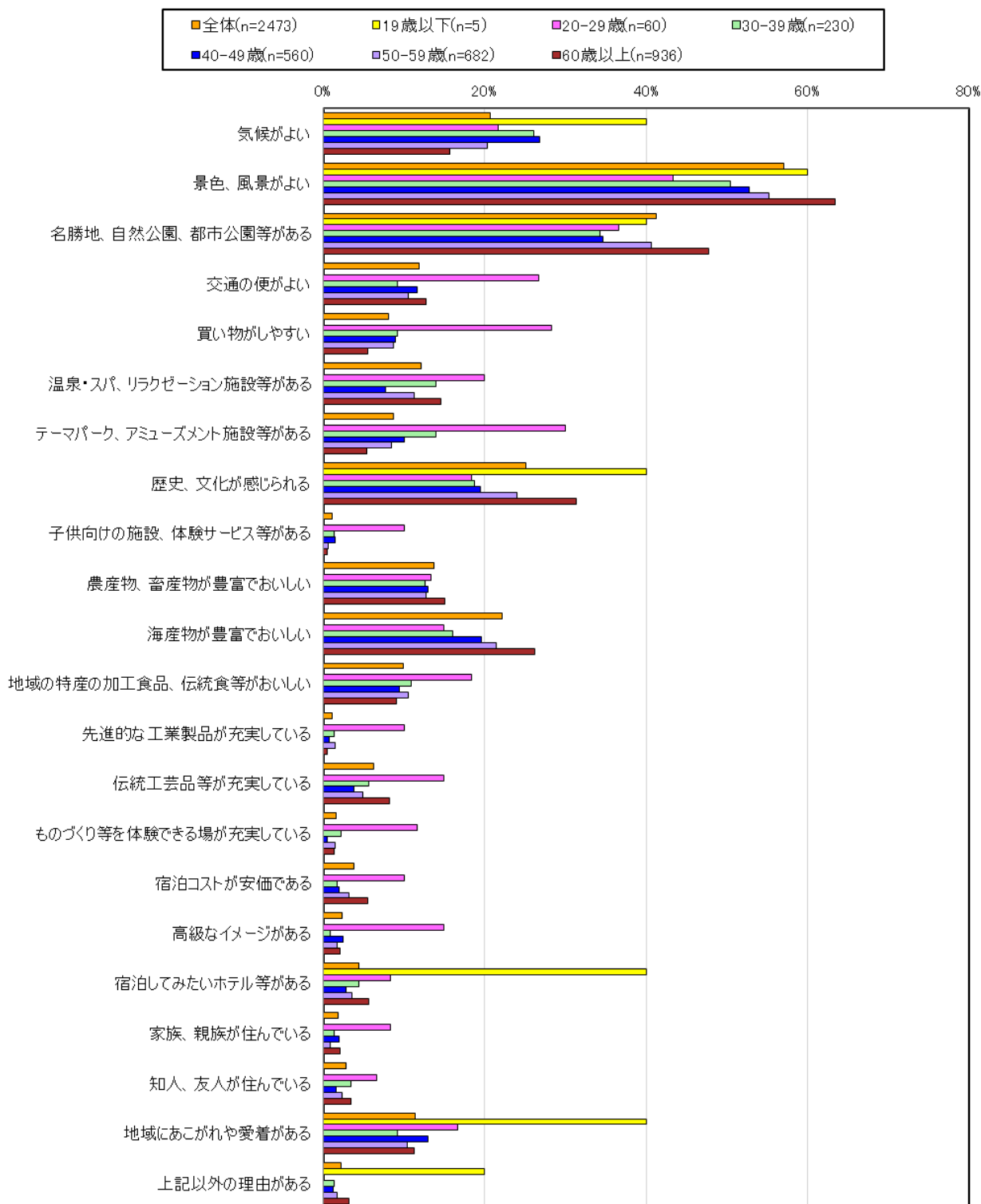
日本全国の「観光で訪れたい地域・スポット」選択の理由について、男女別の分布について、集計した結果が下記である。男女ごとの割合で見ると、男女ともに、「景色、風景が良い」、「名勝地、自然公園、都市公園等がある」、「歴史・風土を感じられる」、「買い物しやすい」が上位に来ていることが分かる。男女で差が出ている項目としては、「名勝地、自然公園、都市公園等がある」、「海産物が豊富でおいしい」が男性で特に多く、「テーマパーク等がある」、「地域の特産の加工食品、伝統食等がおいしい」、「工芸品の充実」が女性に特に多いことが分かる。

図 「観光で訪れたい地域・スポット」選択の理由 男女別の割合



次に年代別の割合で見ると、60 歳以上で、「景色、風景がよい」、「名称地、自然公園、都市公園等がある」の割合が高い。その他、20～29 歳では、「交通の便がよい」、「買い物がしやすい」、「テーマパーク、アミューズメント施設等がある」が理由として上げられているなど、年代別の傾向が分かる。

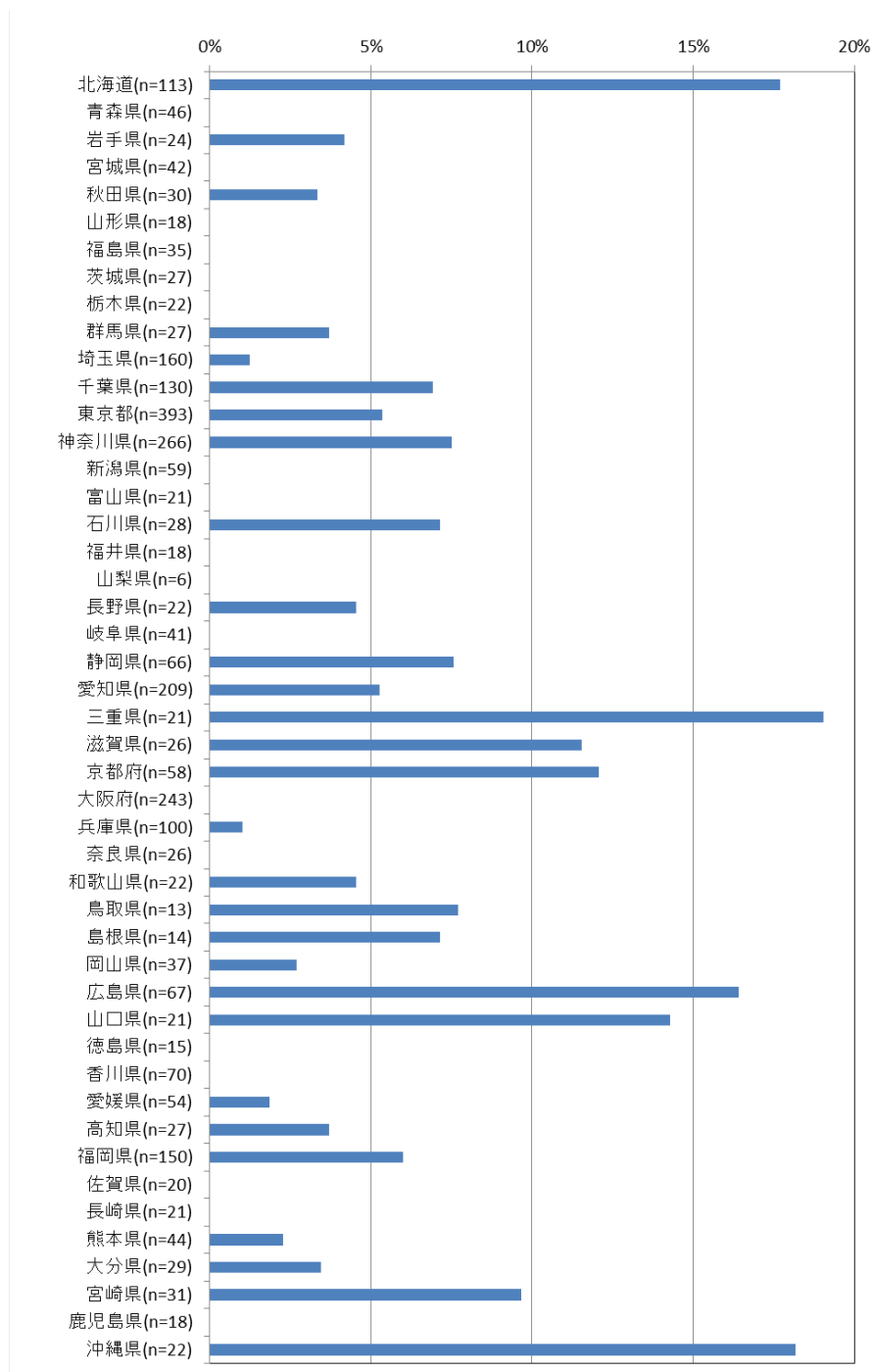
図 「観光で訪れたい地域・スポット」選択の理由 年齢別の割合



2.7. 現在の居住地のある都道府県に観光で訪れたい割合

本アンケート調査では、回答者の居住地について、都道府県単位で聞いている。そこで、観光で訪れたい地域・スポットとして、居住地を選択しているのかどうかについて集計したところ、以下の通りとなった。三重県、沖縄県、北海道、広島県、山口県などが上位に来ている。近隣でも観光に訪れたい地域・スポットが多くあるところと、そうでもないところがあることが分かる。

図 現在の居住地のある都道府県を「観光で訪れたい地域・スポット」とした回答割合



以上